

娘義太夫

すみのすけ

# 竹本住之助

## 百二十年忌

おはなし 辻萬里 (月刊ドラマ編集長)

たまものまへあさひのたもと  
**玉藻前囃袂**

みちはるやかた  
**道春館の段**

さんじゆうさんげんどうむなぎのゆらい  
**三十三間堂棟木由来**

へいたろううち  
**平太郎内より**

きやりおんど  
**水遣音頭**の段

浄瑠璃

竹本 越孝

三味線

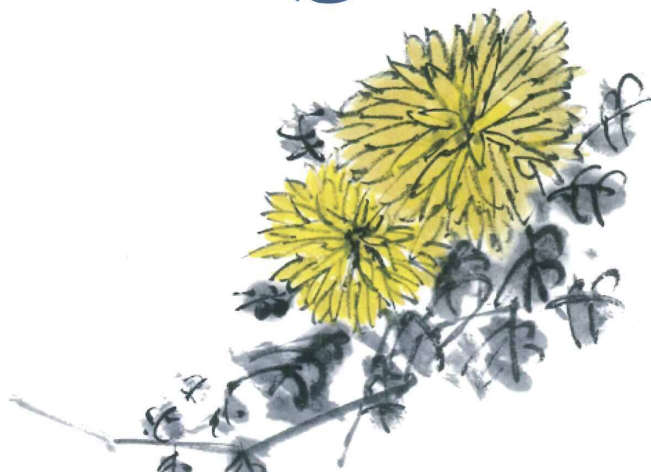
鶴澤 寛也

浄瑠璃

竹本 土佐恵

三味線

鶴澤 駒清



平成26年9月7日(日)

開場 13:30 開演 14:30

(17時終演予定)

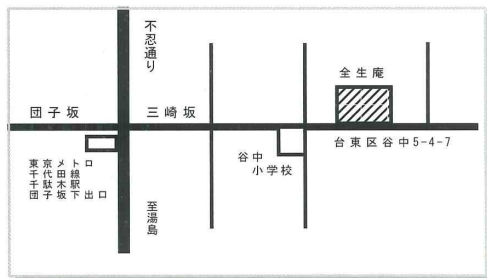
- 入場料: 3,500円(前売り・当日とも)
- お問い合わせ・お申し込み  
義太夫協会 Tel 03-3541-5471  
Fax 03-3546-2334  
e-mail am-giday@gidayu.or.jp

各出演者

- 後援: 一般社団法人義太夫協会

会場 谷中・全生庵

最寄り駅: 東京メトロ千代田線千駄木駅  
団子坂下出口から徒歩5分  
<http://www.theway.jp/zen/>



## 十七歳で夭逝した天才娘義太夫―竹本住之助



明治十一年、八百屋の娘として牛込宮比町に生まれ、初代小住の弟子となり住八を名乗る。明治二十三年住之助と改名し十三歳で少女真打となった。その人気は当時既にアイドルであった綾之助や呂昇をも凌ぎ、明治二十六年の改進黨新聞女義投票では最高得点を得ている。政財界の重鎮らもその才能を大いに評価し、総理大臣松方正義、渋沢栄一らも住之助を扇膚にしたと言われている。明治二十七年、巡業先の秋田で肺炎に罹り、九月七日に十七歳の生涯を閉じた。その墓は政財界の有志、有名俳優らによって谷中の金生庵に建立されている。得意とした演目は玉藻前旭袂「道春館の段」、三十三間堂棟木由来「平太郎内から木遣音頭の段」などであったという。

## 玉藻前曠袂 道春館の段

鳥羽天皇の兄薄雲皇子は、不吉な日食の生まれのために、帝位を弟に譲らざるを得なかつたことから、不満を抱え、密かに謀反を企てていました。そのため、故右大臣道春の家に伝わる獅子王の剣を盗ませ、また、かねてから思いを寄せていた、道春の娘桂姫を連れてくるよう鷹塚金藤治に命じます。金藤治は右大臣家の後室秋の方に、獅子王の剣を皇子に差し出すか桂姫の首を討つて渡すかと迫ります。萩の方が、桂姫は子どもが出来ないことを愛していた時に拾った子であり、とても殺せないというら明け、実の娘初花姫を身替わりにと頼みますが金藤治は聞き入れません。萩の方もかくなる上は双六で負けた方の首をと頼みます。双六に勝つたのは姉の桂姫でしたが、金藤治はなぜか桂姫の首を討つてしまいます。桂姫の恋人である采女之助が走り出て金藤治を刺すと、金藤治は苦しい息の下から、桂姫は実は自分が昔捨てた子だと語り、獅子王の剣のありかも白状します。物語の全体は妖狐玉藻前の伝説を題材に、天竺、唐土、日本を舞台とした壮大な金五段の時代物です。

## 三十三間堂棟木由来

### 平太郎内から木遣音頭の段

紀州熊野の山中、太宰師季仲らが鷹狩りの最中、鷹の足の紐が柳の木に絡まり、鷹を解き放つため柳を切り倒そうとしてるところへ横曽根平太郎が通りかかります。平太郎は矢で紐を射り、柳の木を救います。その後、柳の木の子も生まれ、五年あまりの月日が流れました。その頃、白河法皇は頭痛に苦しみ、柳の木の前にある前世の髑髏が原因とされ、その髑髏を引うために柳の木を切り、棟木として卅三間堂を建立することとなりました。柳の木を切る音が聞こえてくる中、お柳は苦しみに耐えつつ実は自分は人間に姿を変えた柳の精であると平太郎に身の上を明かします。法皇の前世の髑髏を渡すと、これを手柄として出世するように言い残し姿を消し、平太郎と縁丸が後を追います。切り倒された柳の木を運ぼうと大勢の人が木を曳こうとしますが、誰が曳いても柳は動きません。皆が難法するところへ、縁丸を連れた平太郎が、是非綱を曳かせて欲しいと頼み、平太郎の木遣音頭で縁丸が綱を引くと柳は勇々と動くのでした。元は金五段の時代物でしたが、江戸後期に改作された後は、この子別れの段が特に人気となりました。



鶴澤駒清



竹本土佐恵



鶴澤寛也



竹本越寺